

学校長通信 No.8

公立高校の課題

泉佐野ロータリークラブでの卓話抄録

* 本日は、このような席にお呼びいただき誠にありがとうございます。大先輩方を前にお話させていただくには僭越な若輩者ではございますが、大野浩先生に学校医としてお世話になっておりますご縁もあり、この度お声掛けいただきました。しばらくのお時間を拝借いたしますことをお許してください。さて、私はこの4月より日根野高校に着任いたしました任期付校長でございます。任期付校長は、いわゆる民間人校長と呼ばれる者がほとんどですが、いろんな方からよく「どうしてその道を選んだのですか」という質問を頂戴いたします。ですから、まずはそのあたりからお話させていただきたいと思えます。

前職にありました時（普通の民間企業で働いておりました）社の若い者から、「なんで私らの世代はあまり正規雇用されないし、されても殆ど昇給しないんですか。誰がそんな世の中にしたんですか。」というような質問をされました。バブル後のデフレ・リストラ・新興国の追上げ・円高など、時勢であった。生き残るための必死の戦いだった。といえはその通りですが、結果、彼ら若者達の夢（良き就労）と希望（昇給・昇格）の犠牲のもとでの生き残り戦争だった、とも言えるかもしれません。そんなことから、「努力すれば夢は叶う。俺たちもそうしてきた。君らもがんばれ。」と若者達を突き放してしまうことには少し違和感を覚え、これからは若者達に夢と希望を取り戻す仕事がしたい。生きるための底力を育てたい。と思うようになりこの道を選びました。そして、実はこのことが、誰一人生徒を切り捨てない、という公立高校固有のミッションであり、また重要課題のひとつでもあるのです。

具体的には、自分の夢をかたちに置き換える訓練をするところから始まると考えています。高校生が自分の夢をきちんと語れるということは、簡単なことではありません。そのために、本校では従来の文系と理系に加え、3つの専門コース（アドバンスト、幼児教育・保育、看護メディカル）を新しく設置し、これを手がかりに生徒達が社会のこと家族のこと自分のことを具体的に思考していく道筋を作りました。夢をかたちにするために、難関大学に合格することから入っていく道もあれば、そうではない道から入ることもできる。大切なことはしっかりとした人生設計思考ができること。そんなことをこの3つのコース設

定から生徒達が読み取ってくれば、それが私たち日根野高校教職員の望むところです。そして、それがこれからの公立高校の新しいカタチになっていくものとも思っています。最後になりますが、本校は地元を支えられた公立高校として、泉南が大好きでこの土地に生き貢献していく若者達を育ていくことを最大の使命と考えております。泉佐野ロータリークラブ会員の皆さまにおかれましては、地元・日根野高校を温かく見守っていただきますとともに、今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。本日はありがとうございました。

(平成 26 年 9 月 4 日 泉佐野ロータリークラブ例会にて)